

市民芸術の粋、5作品

6月2日から7日まで、カルチャーセンターで行われた第27回市展。素晴らしい作品を見ようと1,400人が訪れました。6部門248点の出品作品の中から、市長賞を受賞したのは5点。その作品と受賞者を紹介します。

洋画「ヨロン島の思い出」



宮野光子さん(黒埼町)

宮野さんが水彩画を始めたのは八年前。「大病を患い仕事を辞め、それまで仕事に打ち込んできた自分の気持ちの中にできた空白感を埋めるために、何か始めてみよう」と絵画教室に通ったのがきっかけでした。作品は、今年の三月に行った与論島の思い出を描いたもの。「ガジュマルと呼ばれる木の生命力あふれる存在感に圧倒され、その木と島の生活が強く結びついた話を聞いた感動をキャンパスに込めたものです」と宮野さん。「楽しかった思い出が詰まった作品。肩の力を抜いて描くことができたのが良かったのでは」と話してくれました。

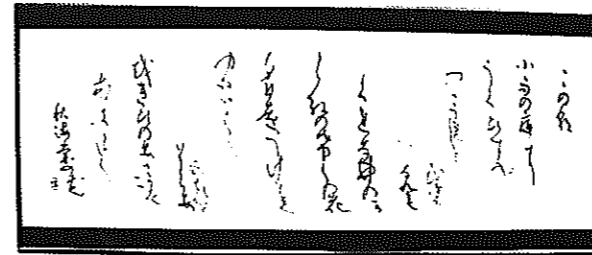


書道「和歌三首」



水野佳代子さん(中央通)

この作品は深く力強い線を出すために白い二層紙という紙を使い、濃い墨を使って書かれています。「作品全体を風景としてとらえ、真ん中に盛り上がりがるように書きました。普段から風景や絵などを見ることも作品のイメージ作りになると先生に言われ、心掛けています。先生はいつも新鮮な感動を持って輝いている人。私もそんな風でありたい」と言う水野さん。「今後は、例えば同じ字を書いた自分の作品の中でも、一番良いものを自分で分けることができるように成長したい。いろいろな人からの評価を聞くのは勉強になります」と話してくれました。



美術工芸「想紋」



田島ミナ子さん(菟口)

「自分で作った食器や花器を使ってみたい」と八年前に市の陶芸教室に参加し、陶芸の魅力に引き込まれた田島さん。現在は、陶芸サークル「水窓会」を中心に作陶しています。作品は、二種類の土を練ってひも状に輪を作り、それを積み上げていく方法で形作ったもの。「できるだけおらかな形にしたいと思って作りました。審査員の人からもそのような講評をいただき、うれしいです。どんなものを作ろうかと考えているときに一番楽しいですね」と、陶芸のほかにも木彫りやバドミントン、オカリナと多趣味な田島さんは、忙しい毎日を送っています。

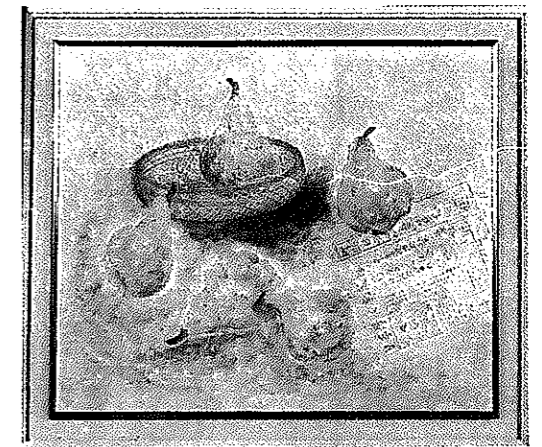


日本画「郷愁」



藤崎久子さん(鯉湯)

三年前、自由な時間ができて公民館の文化講座に通い、日本画を始めたという藤崎さん。「市長賞を受賞し、驚いて眠れないほどでした」と笑います。市展に出すために初めて挑戦した二十号の大きさ。和紙を使ったのもほとんど初めてだったそうです。「ル・レクチュエやナシは色紙などに何回か描いたことがあり、それがデッサンと構図の練習になりました」と嬉しそうです。現在は日本画サークル「萌黄会」に所属し、月二回の活動を続けていきます。「とても温かい会です。日本画を続けてこれたのもそのおかげです。これからもずっと続けていきたいですね」と話してくれました。



写真「大安吉日」



早川 宏さん(白井)

早川さんが、カメラを初めて手にしたのは二十歳のころ。その後しばらくは写真と遠ざかっていました。「写真の基礎を知りたい」と六年前に写真撮影の通信教育を受けたのを機に、本格的に活動。現在は市内写真愛好者のグループ「写真会」に入会し、写真の腕を磨いています。作品は、今年の四月に親戚の花嫁姿を撮影。「写真の中の後ろ向きの方は忘れ物を取りに行くところから霧開風がでたと思います。風景の撮影が好きで、休みを利用して奥日光や乗鞍岳によく足を運んでいます」という早川さんです。

